



Cisco CRS-1 シリーズ キャリア ルーティング システム 16 スロット ライン カード シャーシ アラーム モジュールの交換手順

ここでは、Cisco CRS-1 シリーズ キャリア ルーティング システム 16 スロット ライン カード シャーシ内のアラーム モジュールの取り外しと取り付けの方法を説明します。

内容

このマニュアルの内容は次のとおりです。

- [製品番号および関連文書](#)
- [アラーム モジュールの取り外しと取り付けの前に](#)
- [アラーム モジュールの取り外し方と取り付け方](#)
- [マニュアルの入手方法](#)
- [テクニカル サポート](#)

製品番号および関連文書

この項の内容は次のとおりです。

- [製品番号](#)
- [関連マニュアル](#)

製品番号

- アラーム モジュール (シスコ製品番号 CRS-16-ALARM=)

関連マニュアル

プランニング、取り付け、および構成の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

ハードウェア マニュアル

- *Planning a Cisco CRS-1 Series Carrier Routing System 16-Slot Line Card Chassis Site*
- *Cisco CRS-1 Series Carrier Routing System 16-Slot Line Card Chassis System Description*
- *Installing the Cisco CRS-1 Series Carrier Routing System 16-Slot Line Card Chassis*
- *Cisco CRS-1 Series Carrier Routing System Regulatory Compliance and Safety Information*

ソフトウェア マニュアル

Cisco CRS-1 シリーズ キャリア ルーティング システムに対応するソフトウェア マニュアルの全リストについては、<http://www.cisco.com> にアクセスし、「*About Cisco IOS-XR Software Documentation*」を参照してください。

アラーム モジュールの取り外しと取り付けの前に

アラーム モジュールの取り外しまたは取り付けを行う前に、次の項目をよく読んでください。

- [安全に関する注意事項](#)
- [静電気放電の防止](#)

安全に関する注意事項

このマニュアルに記載されている作業を実施する前に、人身事故または機器の損傷を防ぐために、ここで説明する安全に関する注意事項を確認してください。

次の注意事項は、安全を確保し、機器を保護するためのものです。この注意事項には、起こりうる危険な状況がすべて網羅されているわけではありません。作業時には十分に注意してください。



(注)

カードの取り付け、構成、または取り付けしたカードのトラブルシューティングを行う前に、『Cisco CRS-1 Series Carrier Routing System Regulatory Compliance and Safety Information』に記載されている安全上の警告を確認してください。

- 重くて一人で持ち上げられそうもない機器は、一人で持ち上げようとしないでください。
- 取り付け作業中および取り付け作業後は、作業領域を清潔に保ち、埃などがないようにしてください。レーザーを使用しているコンポーネントに埃やゴミが入らないようにしてください。
- 工具およびルータのコンポーネントが通行の妨げにならないようにしてください。
- MSC、PLIM、またはその関連コンポーネントを扱う際には、たるみの多い衣服やアクセサリなど、ルータに引っかかる恐れのあるものを身に着けないでください。
- シスコの機器は、その仕様や使用手順に従って使用することで安全に動作します。
- 危険を伴う作業は、一人では行わないでください。
- 取り付けは国および地域の電気規約に従う必要があります。米国では、National Fire Protection Association (NFPA) 70 の「United States National Electrical Code」、カナダでは、Canadian Electrical Code の part I、「CSA C22.1」、その他の国については、国際電気標準会議 (IEC) 364 の part 1 ~ part 7 に従ってください。

静電気放電の防止

Electrostatic Discharge (ESD; 静電気放電) により、装置や電子回路が損傷を受けることがあります (静電破壊)。静電破壊は電子部品の取り扱いが不適切な場合に発生し、故障または間欠的な障害をもたらします。ネットワーク装置やそのコンポーネントを取り扱う際は、常に静電気防止用ストラップを使用することをお勧めします。

ESD による損傷を防ぐために、次の注意事項に従ってください。

- 静電気防止用リストまたはアンクルストラップを肌に密着させて着用してください。接続コードの装置側を、ルータの ESD 接続ソケット、またはシャーシの塗装されていない金属面に接続します。
- カードを取り扱うときは、必ずイジェクト レバー (ある場合) または金属製カード フレームの端だけを持ちます。基板またはコネクタ ピンには手を触れないようにしてください。
- 取り外したラインカードは、基板側を上向きにして、静電気防止面に置くか、静電気防止用袋に収めます。コンポーネントを返却する場合は、取り外した後、ただちに静電気防止用袋に入れてください。
- カードと衣服が接触しないように注意してください。リストストラップは身体の静電気から基板を保護するだけです。衣服の静電気が、静電破壊の原因になることがあります。

アラーム モジュールの取り外し方と取り付け方

ここでは次の手順について説明します。

- アラーム モジュールの取り外し
- アラーム モジュールの取り付け

アラーム モジュールの取り外し

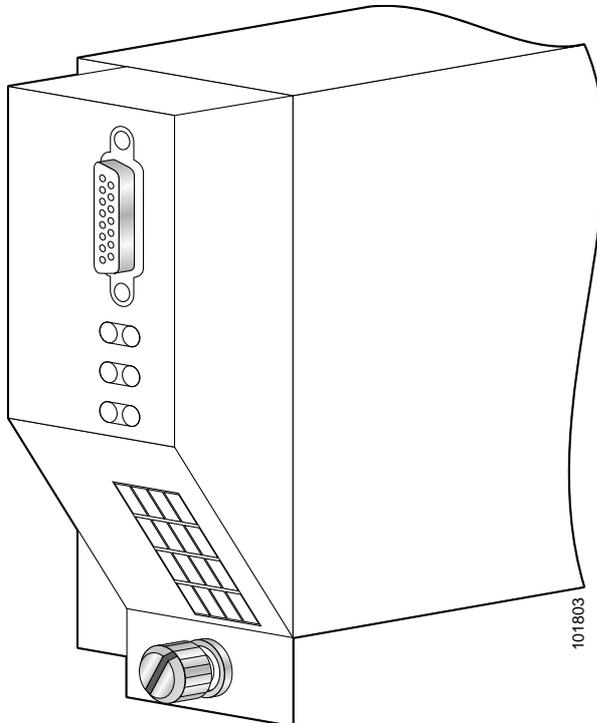
ここでは、アラーム モジュールをライン カード シャーシから取り外す方法について説明します。アラーム モジュールは電源シェルフの一番右のスロット（シャーシ前面から見て）にのみ取り付けられます。認定準拠および安全性の詳細については、『Cisco CRS-1 Series Carrier Routing System Regulatory Compliance and Safety Information』を参照してください。

AC または DC 電源シェルフにはアラーム モジュールがあります。このモジュールは電源シェルフの状態を監視し、システム アラームのための外部インターフェイスになります。各電源シェルフの右側に専用のアラーム モジュール スロットがあります。すべての電源シェルフに同じアラーム モジュールが使われています。次の図に、アラーム モジュールを示します。



(注) アラーム コネクタには Safety Extra-Low Voltage (SELV ; 安全特別低電圧) 回路だけを接続できます。アラーム回路の最大定格電流は 2A、50VA です。

図 1 アラーム モジュール



前提条件

この作業を行う前に、前面外装カバーをすべて取り外します。

必要な工具と機器

アラーム モジュールを取り外すには次の工具が必要です。

- 静電気防止用リストストラップ
- 標準ドライバ（中）

ステップ

アラーム モジュールを取り外すには、次のステップに従います。

- ステップ 1** ストラップを手首に着用し、他端をシャーシ前面の一方の ESD 接続ソケットまたはシャーシの塗装されていない金属面に接続します。
- ステップ 2** ドライバを使用して、アラーム モジュールをシャーシ前面に固定している非脱落型ネジをゆるめず。
- ステップ 3** アラーム モジュールを持って、ベイから半分引き出します。



注意 アラームモジュールの重量は約 13 ポンド (6Kg) です。アラーム モジュールが重く、電源シェルフの位置が高いことから、アラーム モジュールを取り扱う際には両手を使ってください。アラーム モジュールの取り付けまたは取り外しの際には、1 人ではなく 2 人で踏み台を使って作業した方が安全です。

- ステップ 4** 空いている方の手でアラーム モジュールを支えながら、アラーム モジュールをスライドさせて完全にベイから出し、安全な場所に置きます。

次の作業

この作業が終わったら、前面外装カバーを取り付けます。

アラーム モジュールの取り付け

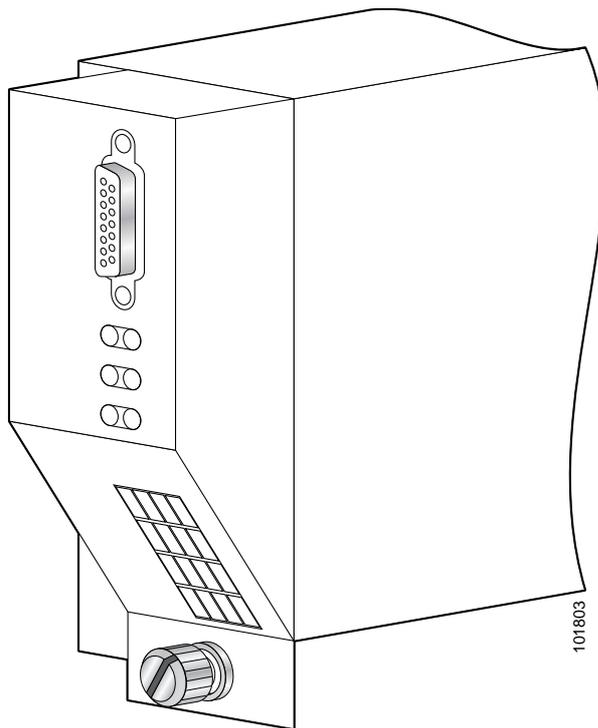
ここでは、アラーム モジュールをライン カード シャーシに取り付ける方法について説明します。アラーム モジュールは電源シェルフの一番右のスロット（シャーシ前面から見て）にのみ取り付けられます。適合規格および安全性の詳細については、『Cisco CRS-1 Series Carrier Routing System Regulatory Compliance and Safety Information』を参照してください。

AC または DC 電源シェルフにはアラーム モジュールがあります。このモジュールは電源シェルフの状態を監視し、システム アラームのための外部インターフェイスになります。各電源シェルフの右側に専用のアラーム モジュール スロットがあります。すべての電源シェルフに同じアラーム モジュールが使われています。次の図に、アラーム モジュールを示します。



(注) アラーム コネクタには Safety Extra-Low Voltage (SELV ; 安全特別低電圧) 回路だけを接続できます。アラーム回路の最大定格電流は 2A、50VA です。

図2 アラーム モジュール



前提条件

この作業を行う前に、前面外装カバーをすべて取り外します。

必要な工具と機器

アラーム モジュールの取り付けには、次の工具と部品が必要です。

- 静電気防止用リスト ストラップ
- 標準ドライバ (中)
- アラーム モジュール (シスコ製品番号 CRS-16-ALARM=)

ステップ

アラーム モジュールを取り付けるには、次のステップに従います。

- ステップ 1** 静電気防止用リスト ストラップを手首に着用し、他端をシャーシ前面の一方の ESD 接続ソケットまたはシャーシの塗装されていない金属面に接続します。



注意 アラーム モジュールのバックプレーン コネクタを損傷しないようにするため、アラーム モジュールを電源シェルフ ベイに挿入するときに力を入れ過ぎないようにしてください。

- ステップ 2** 両手でアラーム モジュールを支えてガイドに合わせ、アラーム モジュール背面のコネクタがシェルフのバックプレーンにあるコネクタに触れるまで、アラーム モジュールをスライドさせて電源シェルフの一番右のベイに入れます。シャーシの前面パネルにあるガイド ピンの位置が、アラーム モジュール前面の穴と合っていることを確認してください。



注意 アラームモジュールの重量は約 13 ポンド (6Kg) です。アラーム モジュールが重く、電源シェルフの取付位置が高いことから、アラーム モジュールを取り扱う際には両手を使ってください。アラーム モジュールの取り付けまたは取り外しの際には、1 人ではなく 2 人で踏み台を使って作業した方が安全です。

- ステップ 3** アラーム モジュールをシャーシのバックプレーン コネクタに強く押し込み、電源シェルフのバックプレーンに装着します。
- ステップ 4** ドライバを使ってアラーム モジュールの下部にある非脱落型モジュールを時計方向に回して、アラーム モジュールのコネクタと電源シェルフのインターフェイス パネルのコネクタを接続します。

次の作業

この作業が終わったら、前面外装カバーを取り付けます。

マニュアルの入手方法

シスコの製品マニュアルおよびその他の資料は、Cisco.com から入手できます。シスコではさらに、さまざまな方法でテクニカル サポートおよびその他のテクニカル リソースを利用できるようにしています。ここでは、シスコ製品に関する技術情報の入手方法について説明します。

Cisco.com

シスコ製品の最新のマニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

シスコ米国本社の Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com>

日本語のマニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

<http://www.cisco.com/jp/>

各国のシスコの Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

マニュアルの発注方法

マニュアルの発注方法については、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es_inpck/pdi.htm

<http://www.cisco.com/jp/>（日本語）

シスコ製品のマニュアルは、次の方法でご発注いただけます。

- Cisco.com（Cisco Direct Customers）に登録されている場合は、Ordering ツールからシスコ製品のマニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/partner/ordering/index.shtml>

- Cisco.com に登録されていない場合は、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、シスコシステムズとサービス契約を結ばれているお客様、パートナー、リセラー、販売店を対象として、評価の高い 24 時間体制のテクニカル サポートを提供しています。Cisco.com でご利用になれる Cisco Technical Support の Web サイトでは、豊富なオンライン サポート リソースが提供されています。また、Cisco Technical Assistance Center (TAC) では技術者による電話サポートも受けられます。シスコとの間で有効なサービス契約を結ばれていないお客様は、販売代理店にご連絡ください。

Cisco Technical Support Web サイト

Cisco Technical Support Web サイトではオンライン マニュアルやツールを提供しており、シスコの製品と技術に関する技術的な問題の解決およびトラブルシューティングにご利用いただけます。次の URL にある Cisco Technical Support Web サイトは、次の URL にて 24 時間 365 日ご利用いただけます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support Web サイトのすべてのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効でもまだユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL でご登録ください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結ばれていない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。

Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register/>

サービス リクエスト

S3 と S4 のサービスを最も早く受けるには、オンラインの TAC Service Request ツールを使用します (S3 および S4 のサービス リクエストは、ネットワーク障害の程度が低い場合、または、製品情報が必要な場合に使用します)。TAC Service Request ツールに問題の状況を入力すると、推奨される解決方法が表示されます。その推奨リソースを使用してもまだ問題が解決しない場合は、Cisco TAC の技術者が対応します。TAC Service Request ツールの URL は、次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

サービス リクエストが S1 または S2 の場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、電話にて Cisco TAC にご連絡ください (S1 または S2 のサービス リクエストは、運用中のネットワークがダウンした場合、または、重大な障害が発生した場合に使用します)。S1 および S2 のサービス リクエストには TAC の技術者がただちに対応し、業務を円滑に運営できるよう支援します。

電話でサービスを受ける場合は、次の電話番号を使用してください。

アジア太平洋地域：+61 2 8446 7411（オーストラリア：1 800 805 227）

欧州・中東・アフリカ地域：+32 2 704 55 55

米国：1 800 553 2447

Cisco TAC の詳しい連絡先については、次の URL をご覧ください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストの重大度の定義

シスコでは、標準のフォーマットですべてのサービス リクエストを受け付けるために、問題の重大度を次のように設定しています。

重大度 1（S1）：ネットワークが「ダウン」している場合、または、業務に致命的な支障をきたしている場合。24 時間体制であらゆる手段を使用して問題の解決にあたります。

重大度 2（S2）：運用しているネットワークのパフォーマンスが著しく低下している場合、またはシスコ製品のパフォーマンスの低下により業務の主要部分に悪影響がでている場合。通常の業務時間内にフルタイムで問題の解決にあたります。

重大度 3（S3）：運用しているネットワークのパフォーマンスは低下しているが、ほとんどの業務に支障がない場合。通常の業務時間内にサービスの復旧を行います。

重大度 4（S4）：シスコ製品の機能、設置、または設定に関する情報またはサポートが必要で、業務への影響がほとんどまたは全くない場合。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報については、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手することができます。

- Cisco Marketplace では、シスコのさまざまな書籍、リファレンス ガイド、ロゴ入り商品を提供しています。シスコの直販サイトである Cisco Marketplace には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- 『Cisco Product Catalog』には、シスコが提供するネットワーキング製品と、その注文方法やカスタマー サポート サービスについての情報があります。『Cisco Product Catalog』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://cisco.com/univercd/cc/td/doc/pcat/>
- Cisco Press では、さまざまなネットワーキング、トレーニング、および資格に関する出版物を発行しています。初心者から上級者まで、幅広い読者に対応しています。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスできます。
<http://www.ciscopress.com>
- 『Packet』は、シスコシステムズが発行するユーザ向けの専門誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用する際に役立ちます。『Packet』は季刊誌になっており、業界の最新動向、技術革新、シスコの製品やソリューションに関する情報に加え、ネットワークにおける機能の配備やトラブルシューティングのヒント、設定例、お客様の事例研究、認定や教育に関する情報、および多数の詳細なオンラインリソースを紹介しています。『Packet』には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/packet>
- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業がどのようにテクノロジーを利用すれば増収、業務の合理化、およびサービスの増加を図れるか、という情報を提供しています。この雑誌では、読者が技術投資の判断を正しく下せるように、実際の事例研究やビジネス戦略を用いて、企業の直面する課題やその解決に役立つ技術を明らかにしています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>
- 『Internet Protocol Journal』はシスコシステムズの季刊誌で、公衆向けか私用向けかに関係なく広くインターネットやイントラネットの設計、開発、運用に携わる技術者の方を対象にしています。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/ipj>
- シスコシステムズでは、ネットワークに関連した最高水準のトレーニングを実施しています。トレーニングの最新情報については、次の URL で確認できます。
<http://www.cisco.com/jp/>

CCSP、Cisco Square Bridge のロゴ、Cisco Unity、Follow Me Browsing、FormShare、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービス マークです。Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、Registrar、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、SwitchProbe、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、TransPath、および VCO は 米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアル内ならびに Web サイトで言及されたその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という用語を使用している場合、シスコ システムズと他社との提携関係を意味するものではありません。(0406R)

Copyright © 2004, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501